

職業奉仕月間によせて 職業奉仕について学び、考えるきっかけを

職業奉仕委員会
委員長

田中 徳彦

(大阪西南RC)



職業奉仕についてよく、難しいとか、解りにくいという言葉を目にします。私自身も恥ずかしながら、ロータリークラブに入って、クラブで職業奉仕委員会を担当するまでわかっていませんでした。

他の奉仕部門は奉仕の対象が委員会名になっているので解りやすいですが、職業奉仕はそうではありません。職業と奉仕、一体どういう事なのか全くわかっていないまま、クラブで初めての委員長を仰せつかったのが職業奉仕委員会でした。

当時大阪西南RCは出前授業や職場体験学習に取り組みを始めようとしていた時でした。私はクラブで出前授業を実施することが、職業奉仕だと思い取り組みました。委員長予定者の段階で職業奉仕に関する本や文章を読みましたが、職業奉仕の活動を理解し、イメージすることができませんでした。

とにかく出前授業と職場体験学習をクラブで実施する事、考えたり、勉強したりするよりもまず、行動したことを覚えています。

そして地元である西区の中学校で総合学習の一環として職業講話という時間があること、また学校側が職場体験学習の受け入れ先企業も探していることがわかりました。

自分自身で学校を歩いたことでそのような事がわかり、お陰様で担当の年度で出前授業と職場体験学

習の両方を実施することができました。

また自分自身で出前授業の講師役となって生徒たちに話すことで、職業を通して奉仕する事とはこういう事なのかと少しわかった気がしました。

何事もそうですが、現場に解決のヒントがありません。そういったことから職業奉仕についてあれこれと考え悩むより、出前授業や職場体験学習の経験の中から少しずつ職業奉仕についてわかってきたように思います。

私自身はこのことが職業奉仕を考えるきっかけでしたが、出前授業や職場体験学習だけではなく、卓話やフォーラム、また会員同士の仕事の話の中からも考えるきっかけはあると思います。

確かに職業奉仕という考えは難しいかも知れませんが、でも私は難しいというよりはわかりにくいだけだと思っています。そのわかりにくさも何かをきっかけとして興味を持ち出すと、少しずつわかるようになると思います。

まずはこの1月の職業奉仕月間をひとつのきっかけとして、職業奉仕について話をしてみてください。そして何か一つ行動すること、学び、考えることから始めていきましょう。

職業奉仕はロータリアンである皆様、ひとりひとりの心の中に必ずあります。